

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 力 恵利佳

1. 単元名 「平和な未来に向けて自分ができること」

2. 単元の目標

- 長崎の町や平和の取り組みを見たり、調べたりすることを通して、平和に対する人々の思いや願い、大切さについて理解する。 (知識及び技能)
- 地元の方の話を聞いたり、戦争に関する資料を読んだりして、人々の平和に対する思いや願いを理解し、これからの自分の生き方を見直すことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 世界の平和を維持するために、身近な社会に目を向け、自分たちができることを考え、将来に向けて行動しようとする心情をもつことができる。 (学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、自分たちが住んでいる小呂島と修学旅行に行く長崎が「戦争」でつながっていることを知り、それをきっかけに「自分にとっての平和とは何か」について考えをつくり、実行し、持続可能な社会の創り手として自分の考えを発信する教材である。

長崎や戦争について学習する際、社会科「幕府の政治と人々の暮らし」「戦争と人々の暮らし」、道徳「長崎がピカッ」「六千人の命を救った決断—杉原千畝—」と関連付け、長崎の文化や日本で戦争が起きていたこと、長崎・広島に原子爆弾が落とされた事実と犠牲になったたくさんの人々のこと、人々の生活の変化や思いを学習する。また、自分の考えを発信する際には、国語科「今、私は、ぼくは」と繋げ、資料を用いて平和への願いと祈りや自分ができることを周りの人たちにも伝えるスピーチを行う。このことは、世界の平和の維持のために、身近な社会に目を向け、自分にできることを考え、行動しようとする子どもを育てる上で意義深い教材であると考えます。

(2) 児童観

本学級の子どもたちは、女児2名の学級で、全校児童8名という少人数の学校の6年生として生活をしている。最高学年としてリーダーシップを発揮し、率先して児童会活動や下級生の世話をしている姿を多く見る。また、話し方や行動においても、相手を傷つけない配慮を感じることができる。

1年生のときから、毎年長崎の平和に関する学習として、「かよこ桜」「一本橋鳥居」「被爆クスノキ」「平和公園」「永井隆博士」「高校生平和大使」について調べたことを発表してきた。また、国語科「私と本」で、平和についてのブックトークをしている。しかし、平和についての考えを深めたり、発信したりしたいという意欲につなげられず、未来へ目を向けるまでには至っていない。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、小呂島には、戦争に関係のあるものが多くあり、小呂島と長崎にどんなことがあったか調べる。その際、毎日通っている通学路に長崎の軍人の墓があることに気付かせ、「なぜ長崎の軍人の墓が小呂島にあるのか」という疑問から、本単元への関心・意欲をも

たせる。

次に、日本が関わった戦争について、小呂島と長崎を中心に修学旅行の事前学習や他教科とも関連付けて調べる。その際、学習プリントを準備し、小呂島と関係する「人・もの・こと」が分かるように調べ記録できるようにする。

そして、世界には平和な状態が保たれていない地域もあることを知らせるとともに、小呂島空襲を実際に見た方のインタビュー、修学旅行で実際に見聞きしたことから、「自分にとっての平和」とは何か考える。

さらには、これらの活動を通して、自分たち一人ひとりが出来ることを表現物にまとめ、全校児童・生徒や地域の人、福岡市内外の学校に発信活動を行う。発信活動の際は、考えの交流も行い、自分の考えの付加・修正も行わせる。

最後に、本単元の活動を振り返ることを通して、自分がこれからの平和や維持の担い手になっていくという実感や意欲につなげたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…小呂島や長崎には、戦争に関する場所があり、それに対する様々な思いや願いがある。長崎にも同じようにあり、それを受け継いでいる人がいること。

公平性…平和の実現のために努力した人やその当時を体験した人の生き方を通して、平和を維持するためには、お互いのことを理解し、助け合うことが必要なことに気付くことができる。

責任性…自分の行動が、平和な社会の実現に繋がることを意識して、自分にできることに取り組むことができる。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

進んで参加する態度…小呂島や長崎に起こった出来事から、自分たちにできることはないかと考え、平和な社会をつくるために貢献しようとする。

システムズ・シンキング…小呂島や長崎に起こった出来事や平和への取り組みを調べ、自分たちができることについて考えることができる。

未来像を予想して計画を立てる力…戦争が起こった現実から、これからの世界を予測し、自分たちができる平和活動を計画する。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正…戦争について調べたり、戦争を経験した人から話を聞いたりすることで、戦争の悲惨さ、恐ろしさを知り、二度と戦争を繰り返さない平和を維持していくということを受け継ぐ。

幸福感を重視する…今の平和な社会が当たり前ではなかった時代があったことに気付く。

・ 達成が期待される SDGs

- 1 0 人や国の不平等をなくそう
- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 6 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 長崎の町や平和の取り組みを直接見たり、調べたりすることができる。 ② 平和に対する人々の思いや願い、平和の大切さについて理解している。	① 地元の方の話を聞いたり、資料を読んだりして、自分の思いを明確にしている。 ② 人々の思いを大事にしながら、自分の生き方を見つめることができる。	① 世界の平和のために、身近な社会に目を向け、自分たちに行えることを考えたり、友達と、意見を聞き合ったりしようとしている。 ② 小呂島の未来に目を向け、行動しようとする心情をもつことができる。

5. 単元の指導計画（全18時間）

配時	主な学習活動	教師の支援 ○視点 ※能力・態度	○評価 ・備考
1	1 今までの小呂島に現存している戦争に関するものや今までの学習を振り返る。 ・ 砲台跡がある。 ・ 軍人の墓がある。 ・ 小呂島に空襲があった。	・ 本単元の見通しをもたせるために、既習学習を想起させる。	ア① (知・技)
	2 資料を提示し、これからの学習への見通しをもつ。 ・ なぜ長崎の軍人のお墓があるのかな？ ・ 平和とは、みんなが仲良くなることかな。 ・ 平和は仲間がいることだ。 学習問題① 小呂島と長崎にはどんなことがあったのだろう。	・ 学習課題を立てるために、資料を複数掲示する。 ・ 平和への考えの変容をわかりやすくするために、今の段階での考えをイメージマップに表しておく。 ○多様性（多くのものがある） ※進んで参加する態度	ア① (知・技) ウ② (主体的)

5	1 どんな出来事があったか調べる。 1945. 8.5 小呂島空襲 - 戦争により、たくさんの人が自分の出身地ではないところで命を落とした。 2 んくもり「長崎のピカッ」の学習から、長崎で起こった出来事に目を向け、調べる。 - 今でも原爆の影響で苦しんでいる人がある。 3 戦後の取り組みについて調べる。 - 長崎では平和記念像や慰霊碑が世界平和を願うために作られた。 - 核廃絶のため高校生平和大使ができた。	- 様々な資料に触れさせるために、インターネットだけでなく、本や資料集も使うようにする。 - 修学旅行との学習と関連付けて考えさせるために、んくもり「長崎のピカッ」の教材を取り扱う。 - 調べを広範囲にしすぎないように、長崎での原爆の被害、修学旅行で訪れる場所を中心に調べるように指導する。 - 平和について考えを深めるために、長崎の原爆資料館の方の話を聞く。 - 戦後の取り組みをわかりやすく提示するために、永井博士の生涯を知る。 - 平和への考えを深めるために、国語の教科書の付録「平和のとりでを築く」を読む。 ○相互性（様々なものが関わりあっている） ※システムズ・シンキング ※コミュニケーション力	ア② (知・技) イ① (思判表) ウ② (主体的) ア① (知・技) イ② (思判表)
---	--	---	---

5	1 小呂島空襲を実際に見た方のインタビュー映像を見て、小呂島で行われている平和への取り組みを考える。 ・ 島のほとんどが焼けた。 ・ 防空壕が2か所あった。 ・ B29がとんできた。 ・ お墓を掃除している人がいる。 ・ お参りしている。	・ 戦争の悲惨さを知るために、実際に見た方の映像を見る。	イ② (思判表)
	学習問題② 小呂島の平和が続いていくように自分にできることを考えよう。		
	2 平和という言葉のもつ意味について考える。 ・ 戦争や紛争がなく、世の中がおだやかな状態にあること ・ 心配やもめごとがなく、おだやかなこと ・ 友達とけんかをせず仲良く過ごすこと 3 自分の考えをまとめる。 ・ 平和とは、自分のことだけでなく、周りのことも考えなければならないんだ。 ・ 自分たちができることはささいなことかもしれないけれど、その積み重ねが大切なんだ。	・ 平和という意味を再度考えるために、辞書で言葉の意味を確認する。 ・ 様々な社会問題があることを知り、平和な状態でないことを知る。 ・ 考えを整理するために、ICTを活用する。 ○公平性（一人ひとりを大切に） ※システムズ・シンキング	ウ① (主体的) ウ② (主体的)

7	1 自分にできることを考えスピーチの原稿を作り、小呂島を伝える表現物を作成する。 ・ 戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝え、戦争を繰り返さない世の中を作りたい。 ・ 小呂島のことも伝えたいのでリーフレットを作りたい。	・ 自分にできることを考えたことを発表するために、国語「発見、日本文化のみりよく」「おすすめパンフレットを作ろう」「今、私は、ぼくは」と関連付けて学習を行う。	ウ② (主体的)
	2 他校や下学年に対してプレゼンを行う。	・ 様々な人に自分の思いが伝わるようするために、資料を取捨選択する。	ウ① (主体的)
	3 スピーチの感想を伝え合い、単元の振り返りをする。 ・ 平和について改めて考えることができた。自分にできることは「けんかをせず仲良くすること」を続けていきたい。 ・ 小呂島にも大切にしていきたい施設があるので、未来に残したい。	・ 自分の考えの深まりを感じさせるために、単元の最初の考えを比較する。 ○責任性（責任をもって行動する） ※未来像を予測して計画を立てる力	ウ② (主体的)